


# 大阪府立中之島図書館開館 110 周年記念

## 「大阪と古典籍」講座

中之島図書館は平成26年2月25日、開館110年を迎えます。開館以来、古今の資料の収集に力を注ぎ、大阪の精神と地域性を伝える資料を幅広く収集し府民の利用に供してきました。この度、当館の開館110年を記念いたしまして、大阪文化と古典籍資料に親しんでいただくための講座を二回にわたり開催いたします。「膝栗毛」は「なぜわざわざ半紙本で刊行されたのか?」「芭蕉はなぜ大坂へ向かったのか?」など「膝栗毛」出版の謎から見える近世の出版事情、そして没後320年を迎えた松尾芭蕉、その終焉の地となった大坂入りの謎をそれぞれ資料をもとに読み解きます。

### 第1回「珍本『膝栗毛』」 平成26年3月4日(火)午後2時~3時30分


講師 永井 一彰先生 (奈良大学 文学部 教授)



『膝栗毛』は中本サイズ(現代の新書版または文庫本サイズ)で企画・出版されました。が、それよりも大きめの半紙本サイズの版本が残っています。珍本『膝栗毛』とはその半紙本の仮称。両者比較してみると、同じ板木による印刷です。江戸時代の本屋は徹底して合理的で、無駄を省くのが普通。それは、出版が産業化した時代としては当たり前のこと。半紙本は中本よりも大きめの紙が必要で、当然経費がかかるのに、何故そんなことをしたのかということ、半紙本を手がかりに考えてみたいと思います。

### 第2回「大坂と芭蕉」 平成26年3月11日(火)午後2時~3時30分

講師 小林 孔先生 (大阪城南女子短期大学 教授)



元禄7年(1694)、芭蕉が南御堂前の花屋仁右衛門方の貸座敷で終焉を迎えてから、今年で320年が経過します。そこで、これまであまり取り上げられることのなかった資料をもとに、芭蕉の大坂での行実を追ってみたいと思います。そもそも、芭蕉は門人間で生じた不和の調停のために大坂に来たのでしょうか。この問題などを含め、大坂入りをした芭蕉の宿泊地についても特定できればと思います。

会場 大阪府立中之島図書館  
(別館 2階 講義室)

資料代 各回 500円

定員 各回 50名

※事前申込制 定員になり次第締切

※平成26年2月4日(火)より募集開始



#### 申し込み方法

(1) ちらし裏面の申込書でFAXにてお申込み

※直接、中之島図書館2階大阪資料古典籍室カウンターへご持参いただいても結構です。

(2) インターネット <http://www.library.pref.osaka.jp/site/osaka/kouza-2014.html>

お問合先: 大阪府立中之島図書館 大阪資料・古典籍課電話 06-6203-0474 (代表) 担当: 乾・小笠原

FAX : 06-6203-4913

## 「大阪と古典籍」講座 参加申込用紙

以下の通り、参加を申し込みます。

大阪府立中之島図書館 大阪資料・古典籍課 宛

名前	(フリガナ)
住所	
電話番号	
FAX 番号	
メールアドレス	
年齢	
希望する 講座	参加を希望する講座にチェック (✓) をつけてください。 両講座とも参加を希望する場合は、両方にチェック (✓) をつけてください。  <input type="checkbox"/> 第1回「珍本『膝栗毛』」 3月4日(火)  <input type="checkbox"/> 第2回「大坂と芭蕉」 3月11日(火)

※申込書に記入された個人情報は本講座実施時の資料としてのみ使用します。

※受講決定の有無につきましては、eメール・FAXまたは電話でお知らせします

※資料代500円は特別講演会当日に受付でお渡しください。なお、お釣りのないようお願いいたします。